

新東名高速道路 新磐田スマートIC 開通後の利用状況と整備効果

令和6年3月

静岡県 磐田市

- 1. 位置・概要**
- 2. 利用交通量**
- 3. 整備効果の検証**
- 4. 新磐田スマートICの現状分析**
- 5. 利用促進策の取組み**
- 6. 今後の利用促進策の取組み**
- 7. 今後のフォローアップスケジュールについて**

1. 位置・概要

接続路線名： 第二東海自動車道横浜名古屋線（E1A 新東名高速道路）

新磐田スマートIC

接続形態	本線直結型
	フルインター形式
出入方向	全方向
利用時間	24時間利用可能
対応車種	ETC車載器搭載の全車両
供用開始	令和3年7月17日15時

[illegible]

1-2.完成写真

上り線側 北から南を望む



下り線側 南から北を望む



○連結許可 : 平成25年6月11日

○開 通 : 令和 3年7月17日

2. 利用交通量

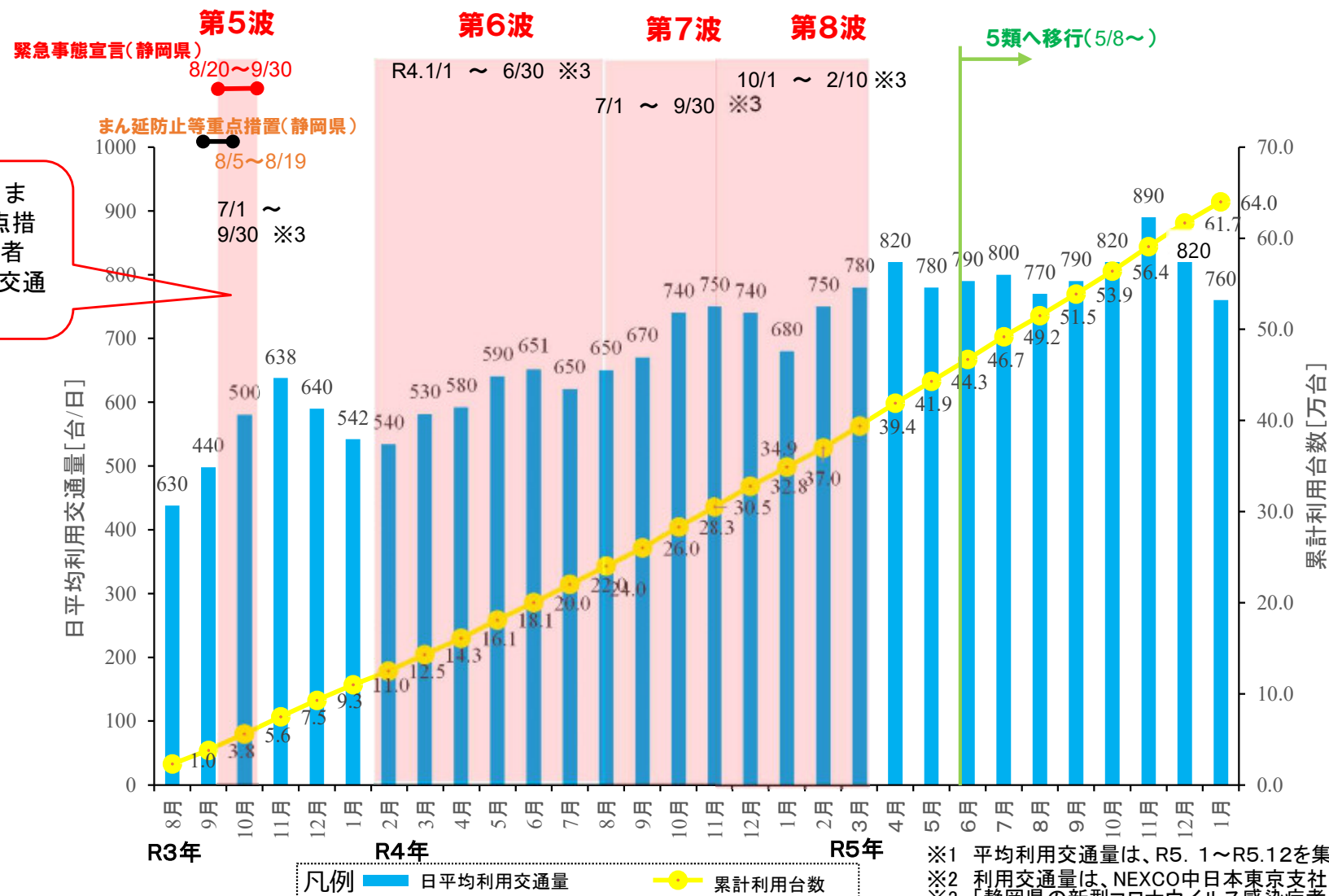
2.新磐田スマートICの利用交通量

○計画交通量は1,500台/日

○令和5年1月～令和5年12月の平均利用交通量は約790台/日※1

開通後(令和3年7月～令和6年1月)の平均利用交通量は約690台/日

○開通後の累計利用台数は約64万台



※1 平均利用交通量は、R5. 1～R5.12を集計

※2 利用交通量は、NEXCO中日本東京支社より提供

※3 「静岡県の新型コロナウイルス感染症発生・入院等の状況」

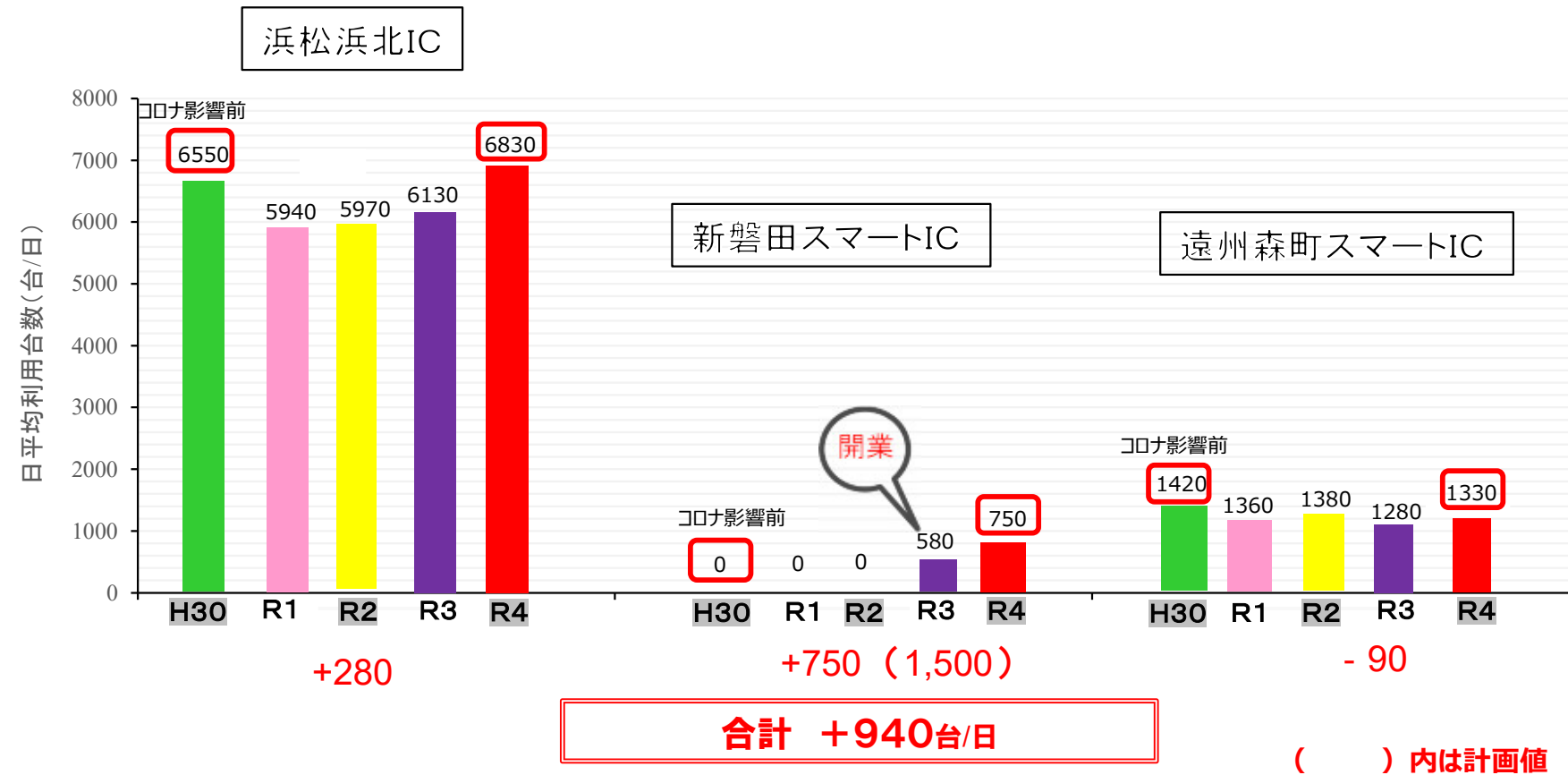
(静岡県健康福祉部新型コロナ対策企画課&推進課R5.7.14)

2-2. 整備前後におけるスマートICとその前後の既設ICにおける出入交通量

利用交通量の変化

○新磐田スマートICとその前後の既設ICにおける出入交通量の合計は、整備の前後の既設ICにおける出入交通量の合計より940台／日増加。※1

【出入り交通量の変化】



① 開通前(H 3 0.8～R 1.7)

② 開通前(R 1.8～R 2.7)

③ 開通前(R 2.8～R 3.7)

④ 開通後(R 3.8～R 4.7)

⑤ 開通後(R 4.8～R 5.7)

※1 緑 H 3 0.8～R 1.7 (コロナ影響前) と 赤 R 4.8～R 5.7 で比較

※2 NEXCO中日本東京支社より提供

3. 整備効果の検証

3. 整備効果検証について

新磐田スマートIC開通後の整備効果検証項目

- 開通後の整備効果項目は下表の**効果①～効果④**（実施計画書に記載の効果）

整備効果メニュー	指標・内容	具体的な指標	使用データ等	開通前	開通後		
					毎月	R5.3月	今回
整備効果①: 工業団地直結による 企業集積の促進 及び雇用創出	【指標①】高速道路までのアクセス時間短縮 【指標②】スマートIC周辺の企業立地	・新平山工業団地から「浜松浜北IC」・「新磐田スマートIC」・「遠州森町スマートIC」への所要時間 ・工業用立地企業数、雇用数	・走行時間調査（※開通前はR3. 1実施） ※開通後はR4. 7実施 ・工業団地の企業を対象としたアンケート	○ ○		○ ○	
整備効果②: 災害活動拠点への 時間短縮及び リダンダンシーの確保	【指標①】救援物資運搬のための アクセス時間短縮 【指標②】代替経路の確保（期待の声）	・「浜松浜北IC」・「新磐田スマートIC」・「遠州森町スマートIC」・「いわたIC」・「遠州豊田SIC」から災害活動拠点への所要時間 ・災害、防災関係者の期待の声	・走行時間調査（※開通前はR3. 1実施） ※開通後はR4. 7実施 ・磐田消防署及び防災担当者へのヒアリング	○ ○		○ ○	
整備効果③: 搬送時間短縮による 地域医療サービスの 向上	【指標①】搬送時間の短縮	・救急病院までの搬送時間の短縮	・全国総合交通分析システム（NITAS）による算出 ・磐田消防署への出勤実績ヒアリング	○		○	
整備効果④: インターチェンジ 利用交通量の変化	【指標①】新磐田スマートICの交通量 【指標②】IC出入交通量の適正な分担	・「新磐田スマートIC」利用交通量 ・「浜松浜北IC」・「新磐田スマートIC」・「遠州森町スマートIC」の利用交通量	・NEXCO中日本提供によるIC出入交通量 ・NEXCO中日本提供によるIC出入交通量		○ ○	○ ○	○ ○

4. 新磐田スマートICの現状分析

参考 利用ICペア比較(H42推計⇔R5実績)

■H42計画交通量は、1,500台／日

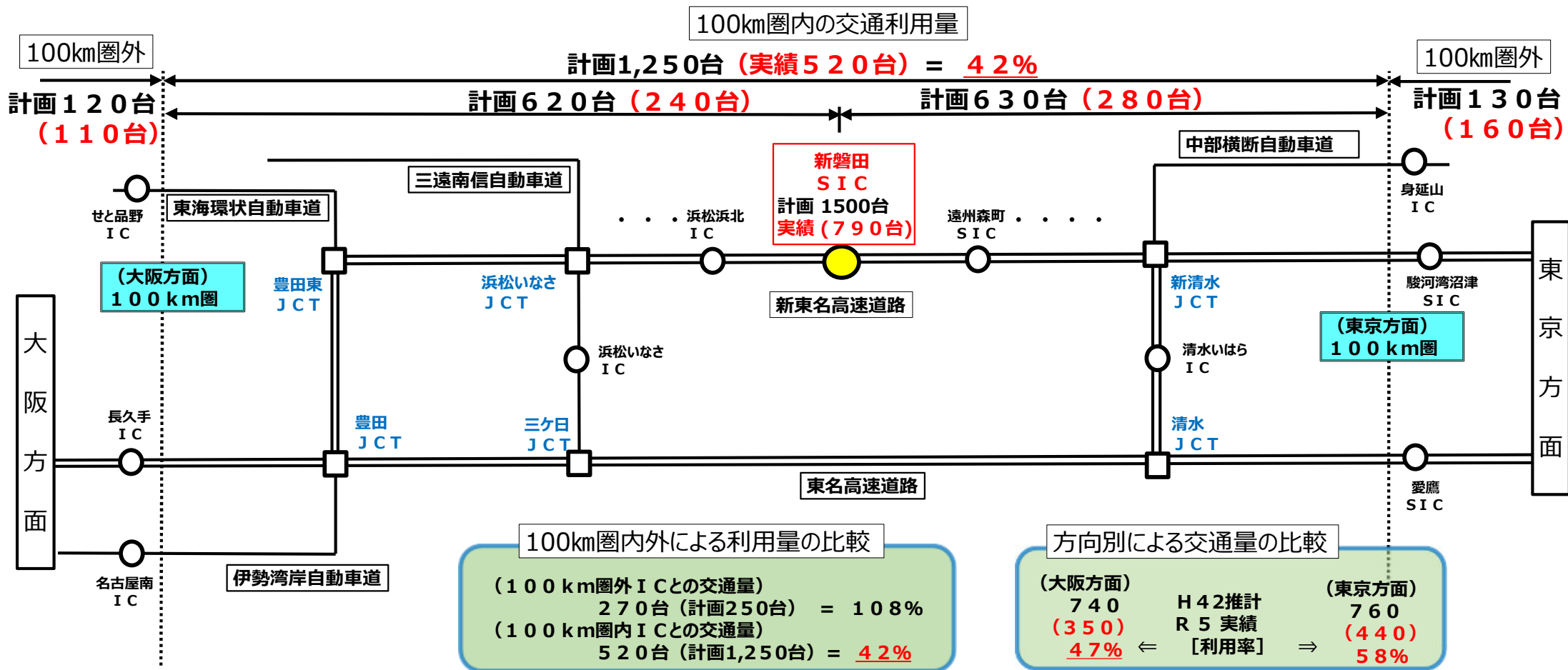
⇒ R5. 1. 1～R5. 12. 31の利用交通量は、790台／日(計画の53%)

■交通量の乖離箇所

◇ 100km圏内の利用 : 計画交通量の約8割を100km圏内ICとの往來を見込んでいるが、100km圏内の利用は計画の**42%**

◇ 方向別による利用状況 : 大阪方面のICとの通行利用量は計画量の**47%**(東京方面は58%)

※ 100km圏内、特に静岡県内の利用者を増やす取組みが必要 ⇒ 周辺企業や観光、レジャー施設にPR継続
⇒ 利便性向上に向けアクセス道路の整備推進



※ 実績値データ提供 : NEXCO中日本東京支社

5. 利用促進策の取組み

5.利用促進策の取組み

○利用促進策⑤

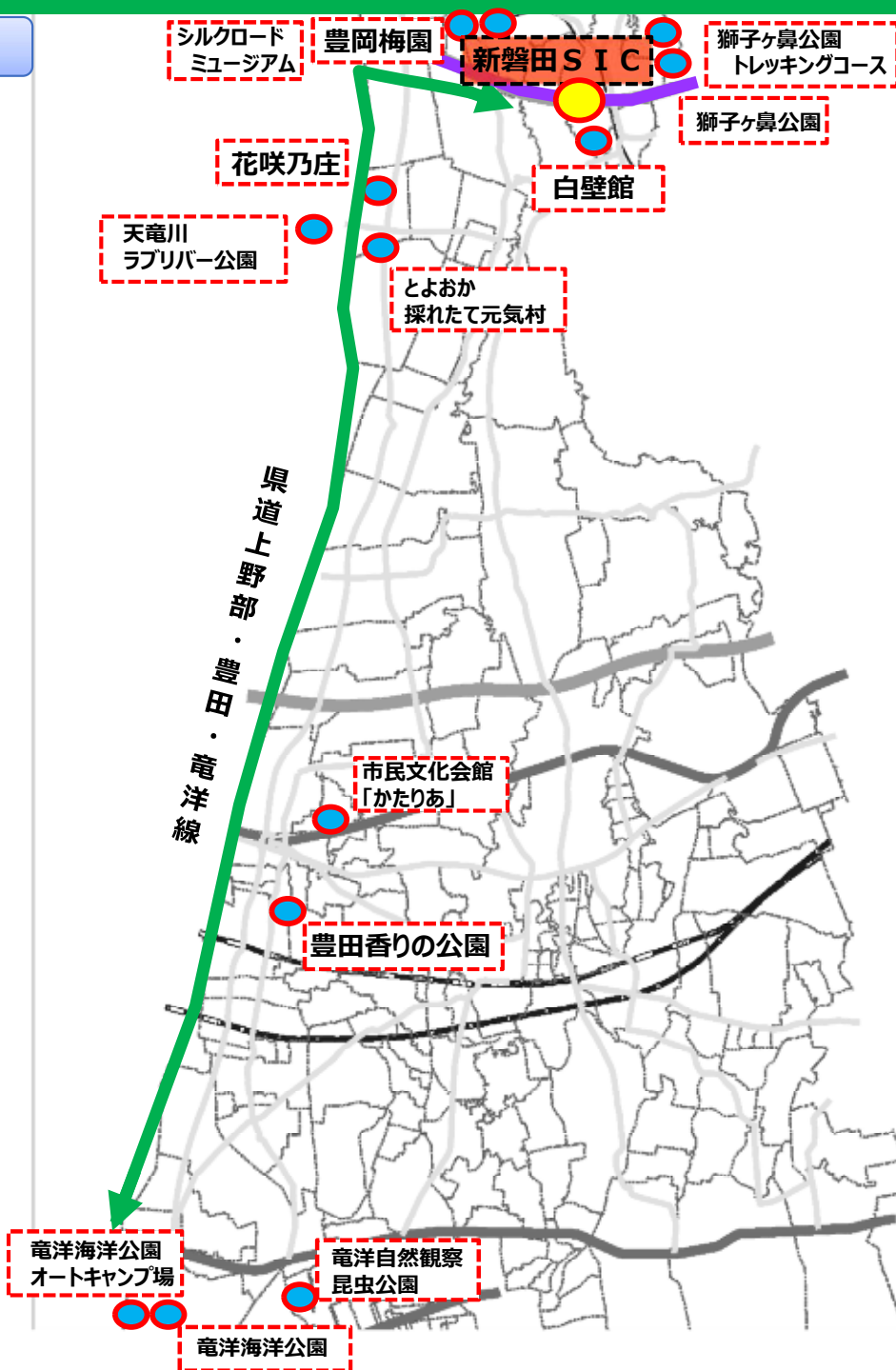
『ホームページ掲載のアクセス案内図修正』

計画：高速道路を利用して来訪者が見込まれる観光、レジャー施設(物産販売・飲食店)について、HP案内図に「新磐田SIC」からのアクセス記載を依頼、修正を行う。

実施：新磐田スマートIC周辺や信号交差点が少なくアクセスに便利な県道上野部・豊田・竜洋線沿いに立地する**13施設**のホームページの交通アクセスについて「新磐田スマートIC」からの案内を記載した。



「新磐田スマートIC」からアクセスを記載 (例)



5.利用促進策の取組み

○利用促進策⑥

『市内イベントへの出店』

計画：市外からの来訪が期待される産業イベント等を活用し、アクセスパネルの展示、チラシ配布により、利便性の宣伝を行う。

実績：下記イベント時に出店ブースを設置し広報活動を実施した。

- 【第1回】令和5年10月28日「竜洋海洋フェスタ」
チラシ配布 120部
来場 約3,000人(実行委員会による)
- 【第2回】令和5年11月19日「豊岡ふるさとまつり」
チラシ配布 120部
来場 約5,000人(実行委員会による)
- 【第3回】令和6年2月10日「竜洋昆虫公園遊具お披露目会」
チラシ配布 70部
来場 約150人(市主催者による)



▲配布チラシ（表）



▲配布チラシ（裏）

6.今後の利用促進策の取組み

6. 今後の利用促進策の取組み

○利用促進策④

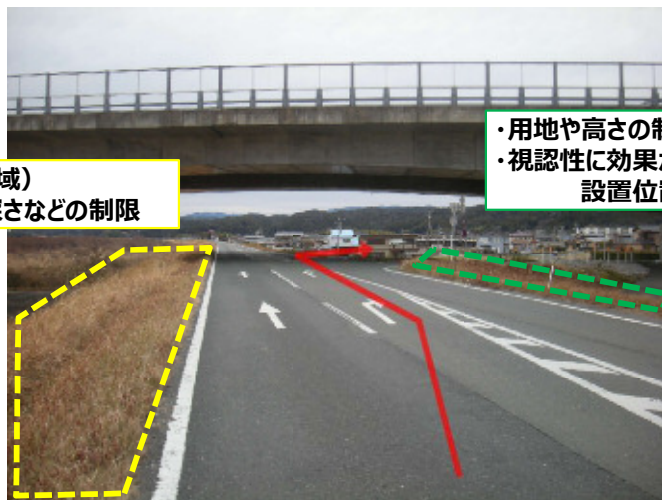
『案内看板の増設』

県道上野部・豊田・竜洋線を北上して「新磐田スマートIC」へアクセスする場合について案内看板の増設が望ましい。

当該箇所は、一級河川天竜川の河川区域による掘削制限、また、案内に最適な設置位置の検討（視認性）、必要により土地所有者との協議等の課題があり設置には至っていない。設置に向け引き続き課題解決に取り組む。



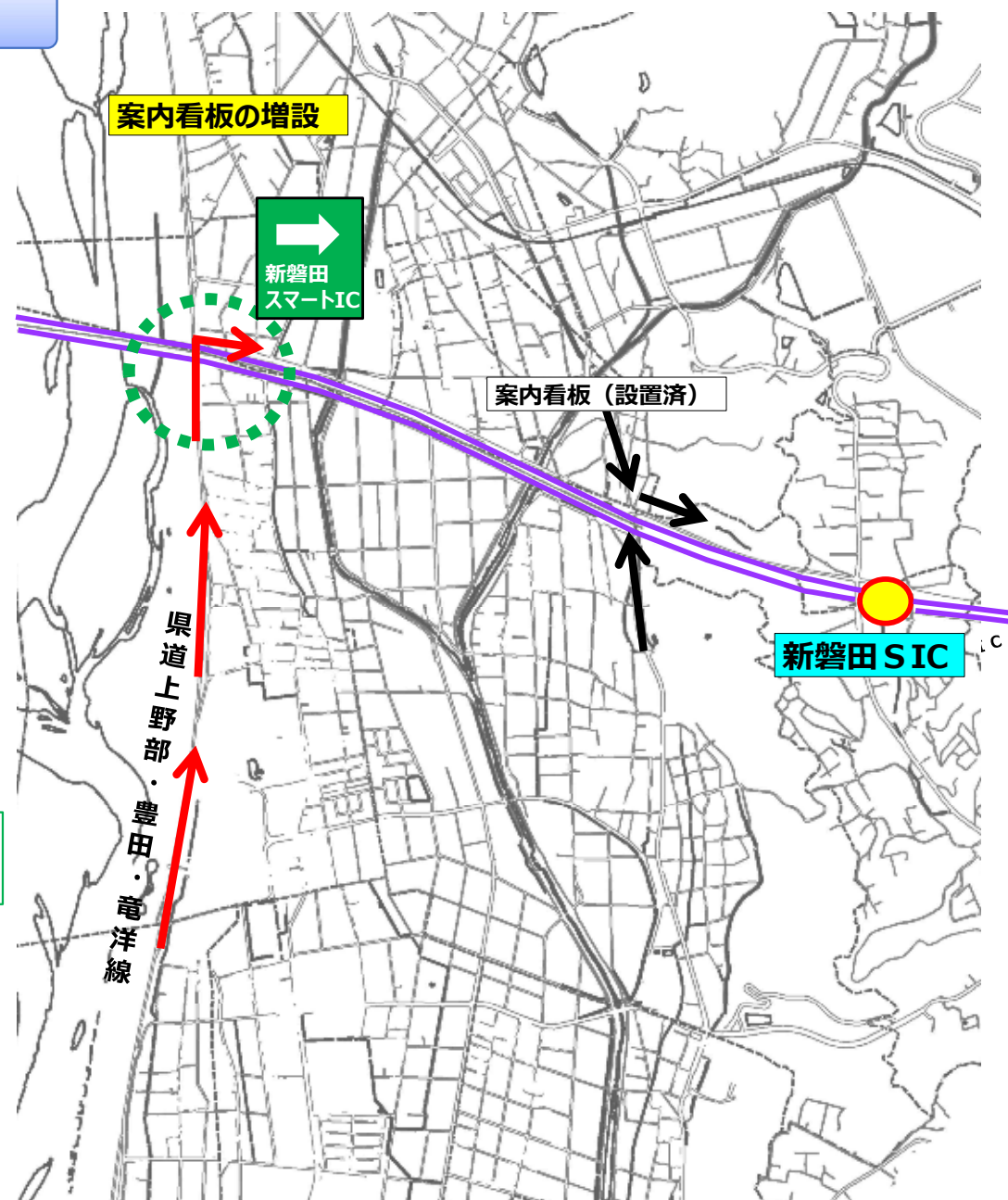
課題解決に向け、地中埋設（掘削部）を縮小するための製品や路面標示による案内など県内外の設置事例の情報収集を行う。



(河川区域)
掘削深さなどの制限

・用地や高さの制限
・視認性に効果がある
設置位置の検討

▲ 県道上野部・豊田・竜洋線の状況（課題）



7. 今後のフォローアップスケジュールについて

7.今後のフォローアップスケジュールについて

- 利用促進策①～③⑥：令和5年度に引続き、令和6年度以降も継続
- 利用促進策④～⑤：令和6年度に実施予定
- 地区協議会・作業部会：定期的に開催し、利用交通量・整備効果の確認、利用促進策の検証等フォローアップを継続

	R4年度				R5年度				R6年度				R7年度			
	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月
利用促進策① 工業団地の未利用地の活用推進																
利用促進策② 産業軸周辺への工場等の立地																
利用促進策③ スマートIC南側アクセス道路の整備																
利用促進策④ 案内看板の増設																
利用促進策⑤ ホームページ掲載の案内図修正																
利用促進策⑥ イベントでのPR活動																
作業部会																
協議会																